

会長就任のご挨拶



会長 井上 章二

このたび東京都市大学環境学部、吉崎真司教授の後を継ぎ、日本海岸林学会の会長に就任いたしました。

本学会は2000年に海岸林研究会として発足し、その後、現在の日本海岸林学会に名称を変更しました。設立当初より、日本学術会議の協力学術研究団体として登録されています。故中島勇喜会長、江崎次夫会長、吉崎真司会長と歴代会長が先頭に立って脈々と築き上げてきた学会としての研究成果と組織をさらに発展させるべく、微力ながら取り組んで参りたいと意を新たにしております。

スマトラ沖地震・インド洋大津波から14年、東日本大震災から7年が経過し、被害の生々しさも薄れて表面的には傷が癒えつつあるとはいえ、被災地の復興に欠かせない海岸域の今後の防災・減災を考えたときに、まだまだ課題は山積していると言わざるを得ません。東日本大震災で甚大な被害を被った海岸林をどのような林に再生させるのか、これまでの研究成果を踏まえ、かなり防災・減災に踏み込んだ対応が取られています。しかしそれですべて解決したわけではありません。さらに知見を積み上げ、より安全で快適な海岸域の確保を目指さなければなりません。同時に、最近災害が発生していない地域の住民にも、防災・減災への意識を高めてもらう必要があります。その意味からも、学会としても常に問題提起をし、社会の関心を高めるべく情報発信を心がけることが肝要です。

私の所属する琉球大学が立地する沖縄県は島嶼県であり、陸地面積は全国44位と狭いものの海岸線の長さは長崎県、北海道、鹿児島県に次ぐ第4位です。県民や来訪者にとって海岸は常に身近な存在ですが、大規模な海岸林は存在せず、本島では林帯幅は最大でも数10mほどです。また、津波に対する海岸林の位置づけについても必ずしも意識が高いとは言えないようです。さまざまな機会を通じて、海岸林の機能を伝え、理解してもらい、防災意識も高めてもらうことが本学会の使命の一つではないでしょうか。

46億年の地球史から考えると、34億年もの間、海中にしか存在し得なかった生物がようやく上陸したのが約4億年前と言われています。最初に陸域に出現した植物がシダ植物で、そのシダは何10mもの高さとなり、森林を形成しましたが、シダは乾燥に弱く、海岸にのみ成立していました。それらの遺体は後世に石炭として恩恵をもたらしてくれたのです。その後、乾燥に強い種子植物の登場により内陸へ森林が広がったと考えられています。このように地球の森林は海岸林から始まったわけです。もちろん現代の海岸林とは背景も質も機能もまったく異なるものですが、これらの重みも感じつつ、今後の海岸林のあるべき姿を探究し続けることが、学会の目的である「海岸林に関する研究の進歩を図り、海岸林とそれをとりまく環境の保全、生活環境の改善などに寄与すること」に繋がると同時に、これは時の要請でもあると考えています。

これらの学会活動は、会員の皆様の日頃の研究成果の積み重ねと学会誌、学会大会等を通じた情報共有とに負うところが大きく、一層のご協力を宜しくお願い申し上げます。このような日頃の活動をさらに活性化することによって新たな会員の獲得にも繋げていきたいと考えています。

琉球大学農学部 亜熱帯農林環境科学科 教授